

現代男性と伝統的な家族？

—新しい家族理解へのカギとなる現代男性—

Helene Aarseth

本投稿の目的は、家族内の男女間の関係について確立されてきた伝統的な考え方に挑戦することである。その出発点は、家族における男性と女性の経験についての研究である。

家族内の労働分担と共同責任の研究は、しばしば、この相互関係にある女性と女性の経験に対して始められる。私たちは男性が自分自身の参加不足について、何を感じているのか、そして、女性の献身的な世話をどのように受けとめているのか、をほとんど尋ねることではない。私は、男性の家族に関する考えが考慮されるようになるとき、男女両方にとって、家族理解の新しい方法を作り出すような新しい分野を切り開くことができるだろう。今日、雇用機会均等は、男性を巻き込まずには進歩することができないだろうと思われている。しかし、男性を巻き込むことの実際的な意味は何だろうか？

本投稿は、家族における男性と女性の経験についての研究、つまり男性の生活の研究から始まっている。この研究は、平均的な男性よりも、女性の伝統的な活動領域により適応している男性を対象にした事例から成り立っている。私は、家族内の男女間の関係について確立されてきた伝統的な考え方に挑戦する一方法として、この研究結果を使うつもりである。

家族内で、どのように労働が分担され、どのような相互関係があるのかという研究は、しばしば、この相互関係にある女性と女性の経験に対して始められる。私たちは、男性に男性自身の参加不足について男性は何を感じているのか、あるいは、男性はどのように女性の役割を認識しているのかを尋ねてこなかった。おそらく、男性が家族と家族の世話について考えた時、男女両方の為の何か新しいものが出現し家族理解の新しい方法を作り出すことができる。

女性学の中では次の事が定式化されている。例えば、男性の家事、雑用への不参加は、支配の一形態であると考えられている。家庭内での男性の受動性は、女性の世話役割の搾取であると解釈されている。私はこのような労働の分担は男性優先のそれ自体の結果ではなく、共に労働する上での合意の結果であると主張するつもりだ。この関係における男性の役割は自分の仕事を優先させることであるが、一方女性の役割は男性を世話し、気配り

をすることである。

私は男性が家庭に対して無関心で怠惰なのは、女性の行う家事や子どもの世話に関連して他の家族成員が従属的立場におかれているからであると解釈している。この種の影響は、特に世話をすることと気配りをする事、そして、最高に与える者としての女性の地位とによって作られている。従って、この種の影響は特に理解されにくく、問題視されることもない。

このことは、男性が家事に参加しないということに対する都合のいい理由になっているかもしれないが、それは、家庭生活により十分に参加したいという男性の関心に反している。まず第一に女性は、女性が犠牲者ではあるかもしれないが、しかし、実際には何らかの影響を及ぼしているということを認める必要がある。第二に重大な事だと思われるのは、この説明は、家族内に従属や不和があるという男性自身を持つ不本意な感情を裏づけることになっていることである。

(三浦麻矢)